

九州地方協 精神病院労組交流集会

課題を出し合い、励まし合って頑張る決意

日本医労連九州地方協は、3月23日（土）～24日（日）に、熊本市内で「精神病院労組交流集会」を開催し、34名が参加しました（地元のピネル記念病院からは延12人参加）。

集会は、精神部会運営委員の図師勝雄さん（井上病院労組）が司会を務め、三浦中執が「精神医療をめぐる情勢と運動」「アウトリーチ推進事業」「特定看護師」問題について講演。全医労熊本地区書記長の古庄さんが、医療観察法・司法精神病棟の状況や支部活動について報告しました。

職場に見える活動で組織拡大

討論の中では、「入院患者の減少や精神医療改革に対応した今後の運営方針を経営者が示さない。組合からの提案にも後ろ向き」「経営が厳しいからと一時金の削減回答」「誠実な団交が行われていない」などの実情も出され、

「労組として毅然とした対応が必要」、「個別経営だけでなく、県医労連、精神部会で協力して頑張ろう」「自治体や地域への働きかけが重要」と議論しました。

また、精神部会の組合員数が減少傾向にあることについて「精神医療の転換期にある今こそ組合員の拡大が重要」と話し合い、組織拡大の経験を交流。「退勤調査で対話・拡大」「職場に見える組合活動が大事」「組合の運動で勝ち取ってきたことを伝えていくことが必要」など相次いで意見が出されました。

「特定看護師」問題では、難易度も高く判断も難しい医行為を一般看護師にも行わせる制度に、「知らなかった」「とんでもない」「『療養上の世話』の専門性・社会的評価を高めることが必要」と意見があいつぎ、緊急署名もその場で集めました。

夜の懇親会も含めて、大いに語り合い交流を深めた集会となりました。



ベア～！
組織拡大も頑張ろう！

